

第 56 回 北海道開発局空港技術研究会議の開催

北海道開発局 港湾空港部 空港・防災課

平成 29 年 12 月 13 日(水)札幌第 1 合同庁舎 2 階講堂において、第 56 回北海道開発局空港技術研究会議を開催し、空港管理者、研究機関、航空会社、建設・舗装会社、建設コンサルタントなど道内外からおよそ 100 名の方にご参加いただきました。

本技術研究会議は、道内の空港整備に携わる担当者の技術の研鑽などを図る目的として昭和 37 年度に第 1 回が開催され、今年で 56 回目の開催となりました。

これまでの研究会議では積雪寒冷地空港特有の課題や話題、空港における施工事例、技術的課題への対策立案、北海道の観光における航空輸送の果たす役割など、空港に係る幅広いテーマについて取り上げて参りました。

会議開催にあたり、北海道開発局真田港湾空港部長から、「最近の北海道の航空動向として、国内線、国際線ともに 5 年連続で過去最高記録を更新し続け、平成 29 年も過去最高を更新する勢いで推移している。新千歳空港においては訪日外国人旅行者の受入環境整備として、国際線エプロンの拡張、誘導路新設等の整備を平成 31 年度の完成を目指し鋭意進めている。また、道内空港では平成 32 年度からの 7 空港を一体とした空港運営の民間委託に向けた取組も進められていることから、本日の技術発表を是非参考にさせていただきたい。」との挨拶で始まりました。

今回の技術研究会議では、特別講演として「仙台空港におけるターミナル拡張工事等について」御講演をいただき、仙台空港における空港活性化や設備投資に

対する基本的な考え方や現在のキャパシティに関する課題認識、旅客搭乗施設整備の具体的な計画についての講演内容で、今後民間委託を進めていくうえで大変参考になる御講演内容でした。

その後、成田国際空港における滑走路の新設や延伸、夜間飛行制限など空港の機能強化に関する検討経緯、関西国際空港における地震津波対策として防潮壁の築造に関する施工事例、最新の空港舗装の設計手法、函館空港の滑走路端安全区域の整備における補償工事の事例についてご発表いただき、北海道内のみならず、同様の課題を抱えるその他の空港においても大変参考となる内容であったと感じています。

また、会議後のアンケートからは次回の技術研究会議にて講演して欲しい具体的なテーマの提案や、本会議の継続を望まれる記載もありました。更には、自ら発表機会を求め方もいらっしゃるなど、改めて本技術研究会議の必要性を感じているところです。

最後に、御多忙の中、本技術研究会議で講演・発表していただきました皆様、並びに聴講にお越しいただいた皆様にこの場をお借りしまして、感謝申し上げます。

	発表件名	発表者
特別講演	13:50 ~ 14:20 仙台空港におけるターミナル拡張工事等について	仙台国際空港株式会社 戦略企画グループ 土田 博志
発表 1	14:30 ~ 14:55 成田国際空港における更なる機能強化に関する検討経緯について	成田国際空港株式会社 経営企画部門 空港計画部 空港計画グループ 主席 匂阪 興平
発表 2	15:15 ~ 15:40 関西国際空港における南海トラフ地震・津波への対策—防潮壁の築造—	関西エアポート株式会社 技術部 基本施設グループ 山田 了平
発表 3	15:45 ~ 16:10 積雪寒冷地における舗装設計に関する一考察について	国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒地道路保全チーム 主任研究員 安倍 隆二
発表 4	16:15 ~ 16:40 函館空港 RESA12 側整備における補償事例について	北海道開発局 函館開発建設部 函館港湾事務所 第 3 工務課 計画係長 大水 達暁



写真-1 特別講演の様子



写真-2 発表の様子